

学校教育目標	校訓『和 なごみ』 「つづける」「つながる」「つくす」 ～自ら学び、みんなと伸び、未来を切り拓く子どもの育成～	経営理念	ミッション 「自ら学び、みんなと伸び、未来を切り拓く子どもの育成」 ビジョン 1 知・徳・体の調和のとれた教育の創造と推進 つづける【挑戦力】・つながる【協働力】・つくす【貢献力】 2 地域とともにある学校づくり
--------	---	------	---

評価計画						自己評価				学校運営協議会による評価		改善方針		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							10月	2月						
豊かな心(徳)	1	多様な他者を尊重し、協働できる児童の育成	あいさつの充実を図ること、多様な他者と協働しながら他者を尊重できる学校生活を送ろうとする児童を育成する。	○あいさつの例を具体的に示し、目標設定や評価に生かすことで、自ら進んで元気よく、友達や先生、地域とつながるあいさつに対する意欲を高める。(目標設定と自己評価、他者評価)	○自ら進んであいさつができていますと肯定的に答える児童の割合(児童アンケート)	90%	80%	93%	103%	4	「自ら進んであいさつができています」と肯定的に回答する児童が93%と目標値を達成することができた。前年度の取り組みを生かしながら、新たに「振り返りカード」を作成・活用することで、児童各々が目標設定や自己評価を行うことができた。	A	・挨拶の具体的な表現、方法が子供達に身に付いている。 ・目標のキャッチフレーズに対しての振り返りが丁寧できている。(意識・意欲付けが高い) ・三ツ城独自の方法が確立されてきている。新たな文化として続いていけばよいと思う。	今後も継続的にあいさつへの取組を行い、習慣づけられるようにしていきたい。その習慣化に向けて、地域や友達、先生と「つながる」ことのよさについても考えられるような取組を考えていきたい。
確かな学力(知)	2	主体的、協働的に学び続ける児童の育成	教科等の特質に応じたつきたい力を明確にしなが、「学びがにつながる」授業づくりを行い、主体的で協働的に学ぶ児童を育成する。	○教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせた授業づくりに取り組む。 ○児童の実態を踏まえた「指導の個別化」や「主体的・協働的な学び」のできる授業づくりの工夫・改善に取り組む。	○意欲的に授業の工夫・改善を行っている教職員の割合(教職員アンケート) ○学習アンケートの「主体性」、「協働性」を見取る項目において肯定的評価の児童の割合(児童アンケート)	85%	80%	88%	110%	4	今年度は全教職員が学習指導案を作成し、授業研究を行った。その結果、教職員の授業の工夫・改善に取り組む姿勢、児童の主体的で協働的に学ぶ姿勢について、目標値を達成することができた。前年度までの研究成果を踏まえた上で今年度、教科の特質に応じた授業改善に焦点化して取り組んだ成果だと考える。	A	・授業参観で児童の学ぶ姿勢を見て実態として育っていると思う。 ・子供の主体性、学びたいという意欲を個人に寄り添った形でフォローして安心してできる。 ・子供達に自主性をもたせて、教科に取り組んでいことを今後も続けてほしい。	今年度の教職員、児童の課題、また今求められる資質・能力を踏まえ、来年度も校内研究を充実させたい。「見方・考え方」を働かせるための手立てについては引き続き研鑽を深め、児童が「主体的・協働的」に学ぶ意義を感じ、自ら学び続けることができるよう授業の工夫・改善に取り組んでいきたい。
健やかな体(体)	3	健康でたくましい心と体の育成	運動習慣の確立を目指し、年間を通して体力づくりに取り組むことで、基礎体力の向上を図り、自己や集団の目標にチャレンジしつづける児童を育成する。	○毎週のロング昼休憩等を活用し、外で体を動かす機会を確保する。 ○三ツ城タイムでいろいろな遊びを提案し、体を動かす楽しさを伝える。スポーツイベントを実施し、集団の目標に向かって体を動かす場を設定する。	○週2回以上1日20分以上運動する児童の割合(児童実態調査)	85%	85%	94%	111%	4	週に2回以上1日20分以上運動する児童の割合が94%と目標値を超える結果となった。三ツ城タイムや毎週火曜日のロング昼休憩を活用し、外で体を動かす機会を確保できたこと、スポーツイベントを実施し、大会に向けてクラスで練習するなど、集団の目標に向かって体を動かす場を設定できたことが結果につながったと考えられる。特に寒い時期に長縄大会を企画したことは、外に出て体を動かすきっかけにつながったと考えられる。	A	・全校児童が目標を持てるイベントは良い。 ・スポーツイベントは、身体を動かすだけでなく、人間関係構築、戦略策定など、広範囲に良い効果が広がっていると感じた。 ・遊びとの両立でしてほしい。	今後も継続して、三ツ城タイムやロング昼休憩を活用し、体を動かす機会を確保していく。来年度もスポーツイベントを実施し、集団で目標に向かって体を動かすことができるよう、場の設定を工夫していくとともに、今後は体育委員などの児童が活躍できる場を設け、児童が主体的に取り組める方法を工夫していく。
地域とともにある学校づくり	4	保護者や地域に開かれた信頼される学校づくり	学校と地域が協働することで、子供たちの学びや成長を支えるための取組を行うとともに、地域、保護者への発信を通して信頼される学校づくりを行う。	○三ツ城の地域や人へ感謝の思いや愛着をもたせるために、地域と共に協働して行う授業や行事を実施したり、参加したりする。	○地域とともに協働して行う授業や行事を通して三ツ城の地域や人へ肯定的な思いをもつ児童の割合(児童アンケート)	85%	98%	98%	115%	4	○全学年で地域の方をゲストティーチャーとして招いたり、地域の学習を取り入れたこと、もちつきで地域の方と触れ合った結果、地域の行事に参加して楽しんだり、地域から学ぶことで学習を深めたりすることができたと感じた児童は97%だった。登下校の地域の見守りから、地域の人たちへの感謝の気持ちを感じている児童も96%だった。	A	・子供達に多くの体験機会があるので良いと思う。 ・様々な行事で、多角的に体験を伴う学びでありがたいと思う。 ・今後も全学年がなにかしらの地域との関わりのある学習があれば良いと思う。	○総合的な学習のカリキュラムの見直しをし、地域とともに学ぶ学習を系統的に行っていく。
				○学校だよりやHP、コミュニティ・スクールだより等の発信を通して、学校の情報を保護者・地域に伝え、開かれた学校づくりを行う。	○学校の情報を地域・保護者に発信することを通して、信頼される学校づくりについて肯定的に答える保護者・地域の割合(アンケート)	85%	91%	107%	4	○学校だより毎月発行、コミュニティ・スクールだよりは6号まで発行した。学校だよりでは、「地域とともに」という内容を伝えたり、命の授業の様子や長期休み明けの児童の様子等について知らせることができた。コミュニティ・スクールだよりは、ゲストティーチャーと一緒に活動していることを中心に発信することができた。	A	・地域を大切にしたいという思いがとても伝わってくる。 ・学習の目的をもって子供達を取り組み、一人一人の子供達をしっかり指導しているため、子供達のこれからの楽しみ。	○今後も学校だよりやコミュニティ・スクールだよりにより地域と共にした活動や日頃の児童の様子が分かることを取り上げる。	
				子供と向き合う時間の確保と働き方についての意識の高揚を図る。	○業務改善について教職員一人一人が年間3つ以上の具体的な方法を設定・実践する。	○業務改善を進めることができた(達成度3・4)と答えた職員の割合	80%	87%	108%	4	○子供と向き合う時間の確保について、教職員の意識を高めるように取り組んだ。業績評価での自己評価は高いが、業務改善について年間3つ以上の具体的な方法を意識してすることについては、達成した教職員は40.7%と低い。	A	・授業改善と業務化以前は相反する面が多いと思うが、工夫して励んで欲しい。 ・児童と先生との信頼関係構築の基盤となる部分だと思っので引き続き、無理なく進めてほしい。	○業務改善が、教職員の勤務時間の短縮だけでなく、子供達の「つづける」「つながる」「つくす」教育活動につながるようしていく。今回、一人一人が行った具体的な方法を全体に広げ、自分のアイデアが人の役に立つという有用感をもてるような取組につなげていきたい。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成値/目標値を百分率で表示する

■自己評価

4...目標を上回って達成 3...目標どおりに達成
2...目標をやや下回って達成 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)

A...とても適切である B...概ね適切である
C...あまり適切でない D...全く適切でない
(N...判定できない)